「第65回愛媛新聞賞」2017年１月１日付　愛媛新聞
（掲載許可番号：G20180201-03711）

第65回 愛媛新聞賞

伝統的
ん(76)=
受賞者

「常識を覆す」研究成果を上げ、環境化学分野を確立してきた田辺信介さん

社会部門

愛媛大特別栄誉教授
田辺　信介さん(65)
＝松山市

環境化学分野を確立

環境汚染が深刻化する中、化学汚染物質が地球規模で拡大していることを実証するなど未知の世界に分け入り「環境化学」という新しい分野を確立した。

「面白くなってきたら、苦労も全部忘れてしまう」と休日も返上で研究に明け暮れた。原動力は「物事を解決していくことの楽しさだ」。

1969年に愛媛大農学部に入学。漫然とした気持ちで学生生活を送っていたが、恩師の立川涼・愛媛大名誉教授との出会いが人生を変えたという。

教科書を読み上げるだけの講義とは違い、当時としては珍しかったプレゼン方式で環境汚染問題に鋭く切り込む姿に魅了された。立川氏の研究室に入り「瀬戸内海の汚染」をテーマに研究を始めた。

60年代の大規模食品公害「カネミ油症事件」で社会問題化した化学物質「ポリ塩化ビフェニール（PCB）」に着目。瀬戸内海での調査で、使用量に対して残留量が少ないことが分かり、疑問を持った。

過酷な環境が数カ月間続く外洋調査を繰り返し、南極やインド洋など世界各地でPCBを検出した。空気や水を介して汚染物質が地球規模で拡大していることを実証した。

研究対象は野生生物にも拡大。イルカやクジラなど海の哺乳動物の肝臓は有害物質を分解する働きが弱く、生涯にわたって蓄積していくことなどを解明した。

研究に取り組む学生に伝えたいのは「常識を覆す楽しさ」と「本当に新しい発見で世界一を目指してほしい」の二つ。40年以上にわたる研究漬けの日々。息抜きの趣味は「もちろん研究だ」と笑った。

（伊藤愛）